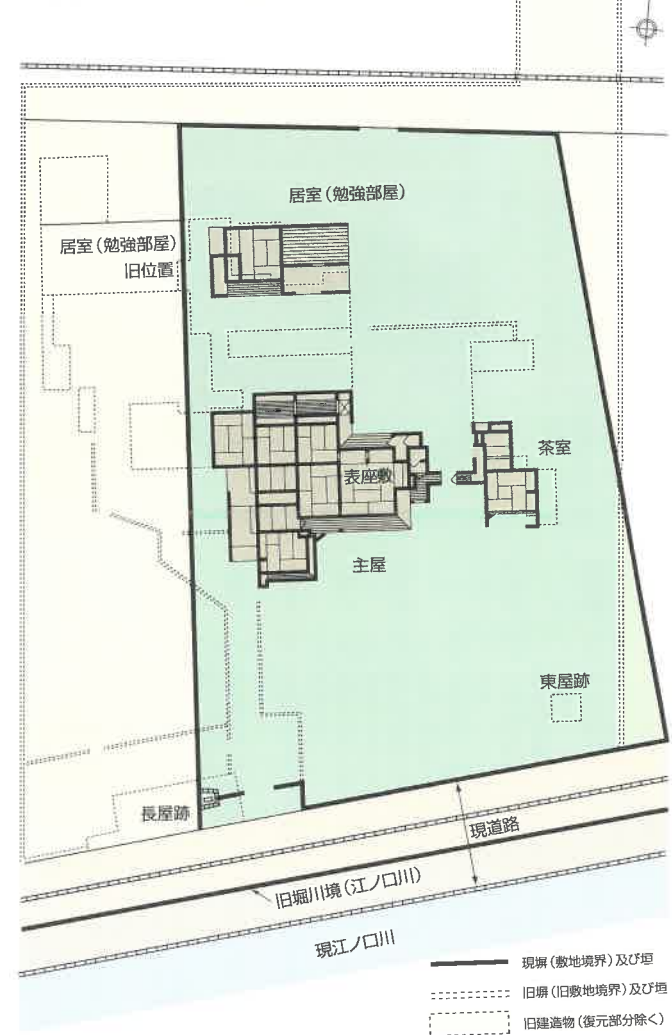


●復元・寺田邸見取図

概要 ●旧寺田邸は、寅彦の父寺田利正氏が明治13年頃購入したもので、その敷地は現在(約404坪)より広く、建物は全体で100坪を越えるものであった。下の見取図は、寅彦の長男寺田東一氏所蔵の「家相図」を参考で作成した旧屋配置図に、現在の敷地、復元した主屋と茶室、移設された居室(勉強部屋)等を重ね合わせたものである。もとの屋敷は、利正氏逝去後、大正3年から親族の管理する貸家となっていたが、昭和20年7月4日の高知市空襲で、敷地西北隅にあった居室を除いて焼失してしまった。



記念館のご案内

開館時間 ●午前9時～午後5時
(見学のための入館は午後4時30分までに)
休館日 ●水曜日、年末年始(12月27日～1月3日)
(環境整備等のため臨時に休館することがあります)
見学料 ●無料(お願ひ―ご見学の際はお静かに。また、邸内での喫煙はご遠慮下さい)
貸 室 ●有料(表座敷・茶室)
所在地 ●高知市小津町4-15 ☎088-873-0564
お問合せ ●高知市民権・文化財課 ☎088-873-7277

案内図



自画像(油)

高知市 寺田寅彦 記念館



高知市史跡 寺田寅彦邸跡と庭園

寺田寅彦とふるさと土佐

寅彦は明治十一年（一八七八）十一月二十八日、東京麹町区平河三丁目に生まれ、四歳から十九歳まで土佐郡江ノ口村（現・高知市小津町）の旧邸（現・寺田寅彦記念館）で育った。江ノ口小学校、県立尋常中学校を経て、熊本第五高等学校物理学科に入学。卒業後、文筆活動、子弟の十二月三十一日

寅彦の土佐にいた旧邸周辺にまた佐藩調練場の砂山（さごう）に行行ったときの「常山の花」、

同大学教授となり、物理学の研究、論文・随筆等の教育等に多大の功績を残し、昭和十年（一九三五）病気のため没した。墓は高知市東久万にある。かわる郷土随筆には、多感な少年時代を過ごしたものが多く、「花物語」には、近くの旧土宅に咲いていた「のうぜ

んかずら」、親戚の家の棟の花などが描かれている。灯や冬夜の子どもの遊びを懐かしみ、「竜舌蘭」「田園雜思」の出話が語られている。「郷土的味覚」では、日曜市でともて売られていた虎杖（こけし）十市（現・南国市十市）の楊梅、実をつける櫻（もも）庭の垣根にあった寒竹（かんたけ）などが登場する。

寒竹は今も旧邸にあり、秋になると寅彦がかつて賞味したといわれる小さな筍が生える。また「庭の追憶」で、藤田太郎画伯の描いた「秋庭」を見て、寅彦が「ほとんど数え切れないさまざまな追憶の場面を映しだす」と書いた飛び石も残されている。（平成十二年三月には旧邸にたくさんあった大杯（おほづき）という種類の楓が新しく植えられた）



寺田寅彦の土佐に関する自然科学の論文や随筆には地球物理学分野のものが多く、地震関係では「土佐の南海岸の地形について」「孕（う）のジャン」がある。気象学では「高知県下の竜巻について」のほか「海鳴について」と「夕風と夕嵐」があり、特に後者の随筆では土佐の夏の夕暮れの蒸し暑さを懐かしがっている。海洋学では、東大のグループが日本全国の港湾を対象に行った「大洋潮汐の副振動についての調査」に加わり、寅彦は高知県下の駿潮儀による観測をほとんど一人で受け持った。なかでも、学生時代に病氣療養で過ごしたことがある須崎では約一か月滞在して入念に調べた。その論文は世界の海洋学者を驚かし、日本の学問的な成果を大いに高めたといわれている。

このように寺田寅彦には、郷土の土佐へ熱い思いを寄せながら書いた随筆や研究が数多くある。（上田 寿）



写真説明（展示品等から）
①父利正に買ってもらった蒸気機関車模型 ②寅彦の旅行カバン
③寅彦がベルリン留学のとき、夏目漱石に預けたオルガン ④邸址碑に埋め込まれた銘板



居室（寅彦の勉強部屋）

唯一戦災を免れ、現位置に移し保存されてきたが、老朽化のため、平成元年に改築された。



主屋表座敷内部

この座敷で寅彦と夏子の結婚披露の祝宴が行われた。部屋の様子は古写真などによく残されている。



茶室

利止氏により明治二十四年に建築されたもので、戦災後、昭和五十一年に復元された。渡り廊下で主屋に続いている。

年譜

年号	年齢	主なできごと
明治11	1歳	十一月二十八日東京麹町区で父利正、母亀の長男として出生。
明治14	4歳	父の熊本転任で、祖母、母、次姉と、郷里高知へ帰る。
明治16	6歳	土佐郡江ノ口小学校に入学。
明治18	8歳	父の東京転任で番町小学校に転校。
明治19	9歳	父の退役で高知に帰り、江ノ口小学校に転入。
明治25	15歳	高知県立尋常中学校に入学。
明治29	19歳	熊本第五高等学校に入学。
明治30	20歳	在学中、田丸幸郎に数学、物理学、夏目漱石に英語、俳句等の指導を受ける。
明治32	22歳	東京帝国大学理科物理学科に入学。上京し正岡子規を訪ねる。
明治34	24歳	肺炎カタルと診断され、須崎で療養。
明治36	26歳	大学を首席で卒業、大学院に入る。海水振動の調査、観測を始める。
明治37	27歳	東大講師を嘱託される。音響学、波動論文を発表。
明治38	28歳	ホトトギス誌上で「団栗」などの小品を発表。
明治39	29歳	漱石の木曜会に出席。磁気尺八研究で学位論文。
明治41	31歳	理学博士の学位を受ける。數相子（かずさうし）の著書「花物語」を発表。
明治42	32歳	東京帝国大学助教授に任命される。宇宙物理研究のため二年間ドイツ及びイギリスに留学。
大正5	39歳	東京帝国大学物理学第三講座担当を命ぜられる。震災予防調査会委員。
大正6	40歳	帝国学士院より恩賜賞を受ける。
大正9	43歳	学術会議会員。随筆、絵筆活動が盛んになる。
大正12	46歳	『冬彦集』數相子集（を右波書店から出版。関東大震災に遭う。火災等調査に大活躍。
大正13	47歳	理化学研究所の所員、航空爆発原因調査。
大正14	48歳	震災予防評議員会議員。勲三等。
昭和元	49歳	東京帝国大学地震研究所員。「日本地震学史」の原稿提出。
昭和2	50歳	地震研究所所員専任となる。
昭和4	52歳	『万華鏡』出版。水産試験場で物理学、海洋調査を委嘱される。
昭和7	55歳	「郷土的味覚」「続冬彦集」を出版。
昭和8	56歳	航空評議会臨時評議員。一杓の種「物質と言葉」「蒸気皿」等多くの随筆を発表。
昭和10	58歳	十二月三十一日移転性骨腫瘍症で東京本郷曙町の自宅で死去。
昭和11		一月六日東京谷中斎場で告別式、遺骨は高知市東久万の寺田家墓地に埋葬。
寺田邸復元略史		
年号	月	主なできごと
昭和20	7	離れ（勉強部屋）を残して旧寺田邸戦災により焼失。
昭和23	2	寺田寅彦先生顕彰会が発足。長男の寺田東一氏から邸跡の寄贈を受ける。
昭和24	2	顕彰会が高知市へ土地を寄付する。
昭和42	5	邸跡及び居室（勉強部屋）が高知市史跡となる。明治百年記念事業として寺田寅彦記念館建設構想が出る。
昭和47	1	記念館（付設、高知近代文学館）建設推進委員会発足。
昭和48	9	高知市文化財保護審議会から旧邸復元の方針が出される。
昭和49	3	推進委員会が寺田寅彦邸を復元する会へ移行。復元する会が募金活動を開始。
昭和51	6	復元する会が高知市へ二五〇万円を寄付。
昭和53	7	高知市寺田寅彦邸復元基金条例を公布。
昭和58	9	茶室復元工事起工、翌年七月竣工。十月に茶室開き。
昭和59	11	主屋復元工事起工、翌年十月竣工。
平成元	10	高知市寺田寅彦記念館開館。
	11	居室（勉強部屋）改築工事起工、翌年三月竣工。